



## ～目次～

1. 寄付金のご報告
2. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い
3. 今後の会議・報告会の予定
4. 石巻・現地情報
5. 石巻・現地支援活動報告
6. 岩手県医療社会事業協会へのボランティア協力
7. 事務支援活動協力員の仕事

## < 1. 患者さんからの寄付のご報告 >

患者さんから当協会へ寄付をいただきました。  
心より感謝申し上げます。

## < 2. 災害支援活動協力員募集と寄付金のお願い >

### ① 支援活動協力員 登録人数 (7月7日(木)現在)

- ・ 現地支援活動協力員 : 138名
- ・ 事務所支援活動協力員 : 81名 の登録を頂いております

**皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。**

**日本医療社会福祉協会 災害対策本部 (03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10～17時**

※メールでのご連絡の際は、件名に「(現地) または (事務所) 災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。

### ② 現地支援活動について

宮城県石巻市の避難所「遊楽館」へ、1日4～5名を目標に派遣を行っています。

- ・ 車を運転出来る方が望ましいですが、複数で行動していますので、運転できない方もご相談くだされば、対応できます。
- ・ 引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上活動をお願いしたいと思います。
- ・ できれば1週間来ていただければ、理想的です。

### ③ 事務所支援活動について

活動日程：月～土、祝日 の 10時～17時 ※半日での参加も可能です

活動内容：主に現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理が中心です  
1日4名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、できるだけ事務所に来やすい方を希望します。事務所協力員に関しては交通費1200円上限と当面させていただきます。多数ご協力をお願いします。

### ④ 【寄付金の振込口座：郵便振込口座】

資金が底をつきつつあります。助成金にも応募していますが、皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義：日本MSW協会災害支援金

口座番号：00100-1-89515

支店名：〇一九（ゼロイチキョウ）店（019）

口座種別：当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別：当座預金 支店：0一九(読み方：ゼロいちきゅう)店

口座番号：89515

備考：・お振り込みいただく金額に制限はございません。

・ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

・お振込手数料は、各自でご負担ください。

・ご協力いただきました寄付の用途については、理事会（2011年3月27日開催）において当協会の行う東日本大震災 災害救援活動に使うことと決定いたしました。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

財務担当 副会長 坪田 まほ

## < 3. 今後の会議・報告会の予定 >

### ●災害支援対策会議・報告会

日時：2011年7月20日(水) 19時～21時

場所：日本医療社会福祉協会 会議室

申込み：不要（直接会場へお越し下さい）

議事録をご希望の方は、災害対策メールでお申込みください。

5月まで行っていましたが、現地ボランティア活動報告会及び事務所ボランティアオリエンテーションですが、6月20日に合同で開催し、7月以降も合同で開催する運びとなりました。

## < 4. 石巻・現地情報 >

詳細は協会ホームページ内『[現地ボランティア応募フォーマットファイル](#)』を

ご覧ください ([http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img\\_Doc/1\\_Img\\_Doc.doc](http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_Doc/1_Img_Doc.doc))

### ① 宿泊場所

5月23日より、2LDKのマンションを宿泊場所として使用開始しました。

- \* JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分
- \* 駐車場1台（原則移動車1台以外は、遊楽館に駐車となります）
- \* 布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどはご持参下さい。

#### マンションでの生活用品の寄附を募集中！

現在不足しているのは、スリッパ、家電（洗濯機・電子レンジ・テレビ・ポット）等です。

詳しくは災害対策本部までお問い合わせください。

### ② 現地移動車両

このたび中古車販売のガリバーインターナショナル社のご厚意により、当会へ半年間自動車を1台貸与していただくことになりました（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。6月20日に仙台泉店より引き取り、既に石巻に移送が完了しております。今後は現地ボランティアの皆様の足としてアパートと遊楽館との往復、支援活動にご利用いただけます。詳細とお願いは、次の通りです。

- ・ 車種 トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501ち 3967」 銀色
- ・ 利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給（給油したら協会に請求してください）、および鍵の管理をお願いします。
- ・ 駐車違反・盗難等に注意してください。

### ② 携帯電話

ソフトバンク様より、当協会へ20台の災害用電話の無料貸し出しをしていただきました。7月1日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

### ③ 避難所での必需品

新しいタオルケットが、避難所のダニバスターズで大量に不足しています。

## < 5. 石巻の現地支援活動状況 >

### 災害フェイズの変化とソーシャルワーカーによる後方支援の必要性

公益社団法人 日本医療社会福祉協会が、遊楽館を拠点として災害支援活動を始めたのは4月2日からです。既に、3か月と10日が過ぎようとしています。ソーシャルワークが対象とする領域は広く、現地にいると気が遠くなります。生活の全体性を意識した支援を実現していくための方法として、私たちは医療福祉ニーズの充足という接合面から入って行きました。それが、遊楽館利用者および遊楽館で支援をする石巻市立病院の専門職への後方支援であったと思います。

この遊楽館を拠点とした支援活動は、見ず知らずの私たちの支援を受け入れようといち早く決断して下さった石巻市立病院の赤井先生をはじめ、市役所の方々の努力に支えられています。次に、私たちを遊楽館の支援グループとして推薦して下さった亀田総合病院医師小野沢先生に感謝申し上げます。さらに、理事会、現地・事務所ボランティア・ご寄付をいただいた方々や多くの機関や人と人を繋いで下さった外部の支援者の方々、会員の方々、宮城県医療社会事業協会の方々と協力しながら継続できたものです。時には、喧々諤々として議論をしながら……。振り返ると、共感し、共に考え、行動することで、バトンを繋いでいくことができたのだと思っています。

活動を始めた当初と比べると、市民の方々の生活は、一定の落ち着きと安定が戻ってきています。また、石巻市の職員の方々もやっと週休をとることができるようになってきました。しかし、石巻市の被災状況は、周辺の市町村とは異なる規模であり、亡くなられた方は宮城県の3分の1、瓦礫の量だけでも岩手県の総量より多いと推定されているそうです。その爪痕は、住民および住民の方々を支援する現地の保健・医療・福祉の専門職に深く残っています。多くの未解決の課題と向き合い諦めずに取り組んでいる現地の姿をイメージしてみてください。実は、これからが大変な時期なのです。その現実の中で、この地域で暮らす人々は生きています。そして、生きていこうとする力強さも実感します。支援プロセスで現実を目の前にすると問題だけに目を奪われそうになりますが、われわれは、ストレングスの視座を基調として、現地の方々の回復を支援していくべきだと思います。

現地では、毎日平均で4人ぐらいの会員の方々が、支援活動をして下さっています。今は、仮設住宅の入居が進み、避難所から仮設住宅に生活の場が移行している時期です。このフェイズは、大量なソーシャルワーカーの支援を必要とするタイミングだと思います。阪神淡路大震災の教訓からも、避難所から仮設住宅への移行期、および、移行後の孤独死が報告されていることは皆さまもご存知のとおりです。

ソーシャルワーカーは、このフェイズに予見性を持ってタイミングを逃すことなく対応すべきだと思います。現在は、遊楽館を拠点にしております。多い時には150人以上が避難していましたが、現在では避難者は50人まで減少しています。現地においでになったソーシャルワーカーが、石巻市の専門家との協働で、一件、一件丁寧に対応して下さったことで、多くの利用者の方々は、二次避難、三次避難先を決めて退所なさって行きました。しかし、退所が終わりではなく、被災した方の現実は退所後に明らかになってきています。直面する現実に向かい合いながら、生活の再建に取り組んでいけるような支援は、様々な側面から必要となると考えます。私たちができる現地への後方支援について、思慮深く検討していく必要があります。

今後、市役所は、避難所の閉鎖について9月末をめどとしていく予定だそうです。そのことを踏まえ、現地の責任者としては、その時の混乱への準備と、支援の拠点を地域に移していく準備をしていく必要があると実感しており、最低でも事業計画通り年度内の活動継続を支持します。そのためには、支援活動継続のために検討しておかなければならない事項が山積しています。公益社団法人の事業の一環として行う災害支援活動の目的、目標に照らし合わせて、方向性を決定していく必要がある時期です。地域に散らばっていった状況下での支援です。多くの住民の方々は、多くの心理社会的課題をかかえており、我々は、どのような立場でどんな接合面に対して、どのような方法で、どのような支援をしていくべきなのか、もっともっと理事さんをはじめ、多くの会員の方々

と意見交換をしていくべきだろうと思っています。

現地で取り組んでいる人々のために、是非、具体的に行動しながら、建設的なディスカッションをしていきませんか。様々な貢献の在り方に関する示唆を期待しております。

私は、現地においてになることだけが災害支援ではないと考えております。会員の皆さんのそれぞれの現場の中で行っている支援内容のご紹介もしていただきたいと思います。

まだ協会活動として支援できていない岩手県や福島県への支援も検討していくべきだろうと思います。共に、支援の輪を広げていきませんか。

## 従来業務の継続 地域を基盤とした支援へのギアチェンジ

- 遊楽館の利用者支援(個別・集団)
- 一般避難所の潜在ニーズへの対応
- 域外(遠隔避難者)から戻る被災者への支援
- 退所者へのフォローアップ
- 仮設住宅での孤独死予防支援
- 地域関係機関の連携・協働の促進支援

2011/7/11

災害とソーシャルワーク

30

石巻市遊楽館にて  
2011/07/10  
現地責任者 草水美代子

石巻にぜひ来てください。  
公文書の発出など協会としてできることは何でも致します。

宜しくお願い申し上げます。  
災害対策本部 本部長 佐原 まち子  
副本部長 笹岡 真弓  
社会活動部 部長 権田 吉儀

## < 6. 岩手県医療社会事業協会への応援 >

大槌町の仮設住宅での支援活動（訪問相談、グループワーク、その他）に協力をお願いします。3泊4日の日程で、今分かっている日程は7/24-27, 8/2-5, 8/14-17です。

大槌町の活動拠点は大槌町社協の災害ボランティアセンターで、センター職員のサポートという立場で、被災住宅や仮設住宅を訪問して生活課題の聞き取りを行うことになります。宿泊は町内の「南部屋会館」という旅館で、災害VCまで5分ほどのところに宿泊できます。お風呂もついています。

このプロジェクトには神奈川県大学病院の会も協力しています。詳しくは災害対策本部事務所までお問い合わせ下さい。

## < 7. 事務所支援活動協力員の仕事 >

事務所支援活動協力員はこんな場所で活動をしています☆



後ろに見えるのが、現地活動予定者表。手前には、PCがあり、メールチェック用、打ち込み用など分かれています。左後ろに見えるのが、活動マニュアルです！対策本部事務所の命ともいえる資料です！！

主な活動内容は以下の通りです☆

1. 電話対応
2. メールチェック
3. 現地支援活動協力員の調整
  - 希望者の日程調整
  - 交通手段の相談

- ボランティア保険の申請
  - 公文書の発行
  - 高速道路無料券の発行
4. 事務所支援活動協力員の調整
  5. ホームページ更新
  6. メールアドレス整理
  7. マニュアル作り
  8. 日誌・申し送りノートに記載，申し送り作成
  9. ニュースレター発行
  10. その他

現在、初台リハビリテーション病院の方々が、午前中活動に入り、初めての方に安心して参加していただけるようオリエンテーションを行っています。また、前述の災害支援対策会議・報告会にご参加いただくと、事務所活動のオリエンテーションも聞いていただけます。申込は不要です。現地へはなかなかいけない東京近郊の方、少しの時間を現地ボランティア支援のために使いませんか？あなたのお力が役に立ちます！お待ちしております。

災害対策本部 事務所責任者 中里 哲也